

1 | 文理融合型カリキュラム

2 | 1年次から演習や実験

3 英語サポートプログラム(ESP)

海外の大学や研究機関との 合同授業や短期研修

- マレーシア
- ブラジル
- インドネシア



国際技術協力プログラム(国際EP)

- 一般企業(広告・マーケティング、航空宇宙、農業・食品産業、コンピューター・技術、建設、教育・研修、エネルギー、金融・経済、製造業、製薬業、公共サービス、通信など)やNGO、NPOなど
- 国内・海外大学院／研究所／国家公務員／地方公務員など

1・2年次開講の理工学の基礎的な知識・技術を英語で学び、将来外資系企業や国連機関で仕事したり、海外大学院で研究をするために必要な英語力を養い、発展途上国に技術支援できる国際的な人材を育成します。講義や研修では、英語による科学技術のディスカッションやプレゼンテーション能力などのスキルが上達できます。(プログラム参加は希望制)

- ① 戸田 龍樹 教授(プランクトン工学)
- ② 黒沢 則夫 教授(微生物学)
- ③ 久保川 達也 教授(数理統計学)
- ④ 久米川 宣一 准教授(植物育種学)
- ⑤ 井田 旬一 教授(材料科学・工学)
- ⑥ 中崎 清彦 教授(環境微生物学)
- ⑦ 秋月 真一 准教授(廃水資源化学工)
- ⑧ 青野 健作 准教授(国際法／地球システム法)
- ⑨ カトリ ブラディープ 准教授(大気科学)
- ⑩ 松山 達 教授(化学工学)
- ⑪ 佐藤 伸二郎 教授(土壌学)
- ⑫ クワハラ ビクター 教授(生物海洋学)
- ⑬ パティア ブランシュ 助教(水資源管理)
- ⑭ チャウドゥーリア ヌプリート カウル 助教(プランクトン工学)
- ⑮ チャン ステラ 助教(水処理工学)
- ⑯ 亀田 多江 教授(ロボット工学)

理工学部

グリーンテクノロジー学科



地球の未来を救う学び。



SOKA University

<https://www.soka.ac.jp>



<https://www.soka.ac.jp/admissions/>



<https://www.soka.ac.jp/science/>



<https://www.soka.ac.jp/campuslife/fees/>



<https://www.soka.ac.jp/campuslife/scholarship/>

グリーンテクノロジーって何？

地球が抱える気候変動を緩和するために創エネルギー・省エネルギー技術や二酸化炭素を吸収する生物生産技術などの環境問題や食糧問題の解決に不可欠な技術

地球が沸騰している。手遅れになる前に温暖化を食い止める低炭素社会を実現する「技術(テクノロジー)」、地球にやさしい食料生産を持続できる「グリーン」な環境、そしてそんなアイデアを世界中に広げる「ビジネス」が今求められている。

地球環境理工学

▶ リモートセンシング観測プラットフォーム ▶ 環境修復技術



資源循環理工学

▶ プランクトン工学 ▶ 廃棄物処理工学



環境情報処理

▶ 環境情報システム ▶ 機械学習(AI)



グリーンテクノロジー社会実装

▶ 環境ビジネス ▶ 国際協力とマーケティング



現在の地球

- 温室効果ガスによる地球温暖化
- 高い環境負荷の生産システムによる食料問題
- 廃棄物・排水処理に伴う環境汚染と生物多様性損失
- 大量生産・大量消費の非循環型社会

未来の地球

- クリーンエネルギーと地球観測技術による低炭素社会
- 環境にやさしい先端技術を使った低炭素生産システム
- 生物工学的アプローチによる資源循環と生態系保全
- 各要素が国内・海外でビジネス化される循環型社会

学びの3分野と人材育成

低炭素技術

カーボンニュートラルな社会構築を目指して、最新の省エネルギー・創エネルギー技術を理解し、それらを設計・実践する能力を養う。



生物生産・食料

農業や水産業の分野にセンシング・自動化技術(IoT)を取り込んだ科目や実験実習を取り入れ、これからの社会における先進的な生物生産プロセスの構築に寄与できる能力を養う。



国際協力・経済経営・アントレプレナー

様々な低炭素技術や生物生産システムの社会実装化を目指し、実社会への技術・プロセス・製品の還元により、国際協力や起業などを立案できる実践的な力を養う。



Green Technology